

北大病院心エコー室で検査を受けた患者さんまたはご家族の方へ
(臨床研究に関する情報)

北海道大学大学院 循環病態内科学では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、北大病院において、通常の診療で得られる診療記録や検査結果を分析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

[研究課題名] Dual Gate Doppler 法による左房収縮時の血流時相解析の有用性

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属]

辻永 真吾（北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学・特任助教）

[研究の目的]

社会の高齢化とともに、心不全患者さんの数は急増しており、今後、ますます増えることが予想されます。心不全の多くには左室拡張機能障害が関与しており、この検出には心臓超音波（心エコー）検査が有用です。とくに、左室硬さの増大は、左房圧の上昇、すなわち心不全が顕在化する前駆段階を意味すると考えられており、心不全のリスクを有する心疾患患者さんにおいて、左室硬さの増大を検出することは重要です。しかし、左室硬さを簡便かつ精度よく評価する方法は確立されておらず、新たな手法の考案が望まれます。そこで、私たちは、心エコー検査のDual Gate Doppler法という手法を用いて心房収縮期に左房から左室に流入する血流と肺静脈へ逆行する血流を同時に記録することにより、左室硬さを評価する手法を考案しました。この方法により左室硬さをより簡便かつ正確に行えるようになれば、心不全の危険が迫った心疾患患者さんを従来よりも精度よく検出でき、心不全患者さんの治療の質の向上につながる可能性があります。

[研究の方法]

●対象となる方

2017年8月から2020年12月までの間に、北海道大学病院で心エコー検査を受けた患者さんのうちDual Gate Doppler法による画像記録が行われた患者さん。

●利用するカルテ情報

1. 診療記録から、年齢、性別、身長、体重、血圧、診断名、病歴、身体所見、血液生化学的検査結果、血漿中の脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）濃度、N 末端プロ B

型ナトリウム利尿ペプチド（NT-proBNP）濃度、臨床経過ならびに治療内容を調査させていただきます。

2. 心エコー検査記録から、一般的な心エコー指標に関する情報と Dual Gate Doppler 法による経僧帽弁血流と肺静脈血流の情報を調査させていただきます。

[研究実施期間] 病院長による実施許可日～2022年3月31日

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究の実施にあたり、研究に利用する患者さんの情報に関しては、研究担当者が北海道大学病院内で診療記録や心エコー検査記録を収集した後、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

札幌市北区北12条西5丁目

北海道大学保健科学研究院・講師 岡田 一範（連絡担当者）

電話 011-706-3730, FAX 011-706-3730